令和4年度 年間指導計画

教 科 名	技術・家庭科(技術分野)	
学年・年間授業時数	1 学年・3 5 時間	
使用教科書(出版社)	「技術・家庭 技術分野」 (開隆堂)	
使用副教材(出版社)	技術・家庭ノート 技術分野 (新学社)	
教科担当者名 根岸 将人		

1 教科の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)生活や社会で利用されている材料,加工,生物育成,エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに,それらに係る技能を身に付け,技術と生活や社会,環境との関わりについて理解を深める。
- (2)生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3)よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 観点別学習状況の評価規準・評価方法

観点	評価規準	評価方法
知識技能	生活と技術について理解しているとともに、それら に関わる技能を身につけている。	・定期考査・実技テスト・学習活動の観察・作品
思考 判断 表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・作品・定期考査・実技テスト・学習活動の観察・実習課題への取組など
主体的に 学習に取り組む 態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、創造し、実践しようとしている。	・学習活動への取組・学習課題への取組・実習課題への取組・自己評価など

3 年間学習計画 《技術科:1年》

	_	_		《技術科:		== -	=
期	月	週			·配当時数	学習内容	学習のポイント
	4	1	ガイダ	<u>ンス(1)</u>			
		2		と加工の打		・材料と加工の技術が生活や	・技術が社会でどのように、生かされているかわか
		3		舌や社会と	≤加工の技	社会で果たしている役割に気	る。
		4	術			づく。	・技術とわたしたちの関わりがわかる。
	_	5		料を利用す	「るための	・身の回りの製品に利用されて いる材料の種類と加工方法を	・技術の学習の内容がわかる。 ・材料の種類・特徴・用途などがわかり、環境との
	5		技術			知る。	関わりも説明でき、ノートにまとめることができる。
			2-1問記	題解決の引	手順		・ものづくりの設計の進め方がわかり、説明でき
		7				解決の手順を知る。	ワークシート等にまとめることができる。
		8				・材料と加工の技術に関する	
	6	9				製品にある問題解決の視点に	
		10				ついて考える。 ・材料取りと部品加工に必要な	
		11				作業の役割と方法を知る。	
前		12				下来の反的この点となる。	
期			 				
, , ,		13					
	7	14					
		15					
		16	2-2製化	作のための	D技能	①部品表と工程表	・部品表と工程表の見方が理解でき、作業の進め
	8	17	(木材))		②けがき	方がわかる。
	9	18				③切断	・自分の設計にあわせて、けがくことができる。
	9	19				④切削 ⑤穴あけ	けがき線に沿って切断できる。切断面に沿って、適切に切削できる。
						⑥部品の検査と修正	・けがき線に沿って、適切に穴あけができる。
		20	ļ			⑦組み立て	・部品加工のあと、部品を適切に検査・修正でき
		21				⑧表面と角の仕上げ	る。
		22				⑨製作まとめ	・適切に組み立てができる。
	10	23					・部品表に沿って、適切に表面と角の仕上げができ
	10	24					る。 ・製作の様子をまとめることができる。
		25					「・製作の様子をまとめることができる。
		26					
	11	27					
		28					
		29					
		30					
	12	31					
	12	32					
			3末大半川	レ加工に既	オス技術の	・材料と加工の学習を振り返ろ	┃ ・材料と加工に関する技術が、社会や環境に果た
後			014 ተተ	_加工10天	1 7 (D) V	う。	している役割と影響についての理解を深める。
		34				・材料と加工の技術と私たちの	・材料と加工に関する技術の適切な評価と活用に
期	1	35	ļ			未来	ついて, 主体的に考える
		36					
		37					
	2	38					
	_	39					
		40	ł				
			ł				
		41	- 1 = +-	に田士マエ		4.1D 40##++	
	3	42		<u>に関する</u>		・ネットワークの構成を知ろう・情報を伝えるしくみを知ろう	・ネットワークや情報を伝えるしくみについてまと め、説明することができる。
		43		とわたした			はい、見られて の「ここと、ここで)。
		44		週間イツト	ワークの利		
		45	用				
\Box			<u> </u>				<u> </u>

令和4年度 年間指導計画

教 科 名	技術・家庭科 (技術分野)	
学年・年間授業時数	2 学年・3 5 時間	
使用教科書(出版社)	「技術・家庭 技術分野」 (開隆堂)	
使用副教材(出版社)	技術・家庭ノート 技術分野 (新学社)	
教科担当者名 根岸 将人		

1 教科の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)生活や社会で利用されている材料,加工,生物育成,エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに,それらに係る技能を身に付け,技術と生活や社会,環境との関わりについて理解を深める。
- (2)生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3)よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 観点別学習状況の評価規準・評価方法

観点	評価規準	評価方法
知識技能	生活と技術について理解しているとともに、それら に関わる技能を身につけている。	・定期考査・実技テスト・学習活動の観察・作品
思考 判断 表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・作品・定期考査・実技テスト・学習活動の観察・実習課題への取組など
主体的に 学習に取り組む 態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、創造し、実践しようとしている。	・学習活動への取組・学習課題への取組・実習課題への取組・自己評価など

3 年間学習計画 《技術科:2年》

			計画 《技術科・2年》		
期	月	週	単元・教材名・配当時数	女 学習内容	学習のポイント
	4	1	<u>ガイダンス(1)</u>		
		2	A材料と加工の技術(11)	材料と加工に関する技術とわ	・部品表と工程表の見方が理解でき、作業の進め
			2-2製作のための技能	たしたち鋳造キーホルダーの	方がわかる。
		3	<金属>	製作①部品表と工程表	・自分の設計にあわせて、けがくことができる。
		4		②けがき	けがき線に沿って切断できる。
	5	5		③切断、切削	・切断面に沿って、適切に切削できる。
		6		⑤穴開け	・けがき線に沿って、適切に穴あけ・溝ほりができ
		7		⑥仕上げ	る。
					・部品加工のあと、部品を適切に検査・修正でき
		8			る。・適切に組み立てができる。
	6	9			・部品表に沿って、適切に表面と角の仕上げができ
		10			る。 ************************************
					・製作の様子をまとめることができる。
前		11			
++0		12			
期		13			
	7	14			
	/				
		15	•		
		16			
	8	17			
	9	18			
	9				
		19			
		20			
		21	D情報に関する技術(6)	・ネットワークの安全性につい	・ネットワークの安全性、セキュリティについてまと
		22	1情報とわたしたちの生活21		め、説明することができる。
			報通信ネットワークの利用	情報セキュリティについて知	・情報を扱う際の、モラルについてまとめ、発表す
	10	23	3情報通信ネットワークと情幸	る ろう	ること ができる
		24	セキュリティ	・利用するときのモラルについ	・人権・固人情報・知的財産についてまとめ、発表
			4情報モラルと知的財産	て考えよう。	することができる。
		26	5コンピュータと情報処理	・人権・個人情報・知的財産の	
				保護について考えよう	
	11	27			
		28	B生物育成に関する技術	・生物育成の意味とその目的、	・生物育成について理解し、ワークシート・ノートに
		29	<u>(11)</u>	わたしたちの生活における役	まとめることができる。
			1わたしたちの生活と生物育		・作物がよく育つ環境について理解し、ノート・ワー
		01	2生物の育成	・自分が育成する生物の育成	クシートにまとめることができる。
	12		3作物の栽培	計画を構想し、その育成に見通	- 野菜の栽培について理解し、実践できる。
		32	5動物の飼育 6ベビーリーフの栽培	しをもつ。 ・作物の特性を理解し、栽培に	
		33	(実習)	見通しをもつ。	
後		34	(~ b /	・家畜には、様々な習性や飼育	
	_			環境に応じた管理技術がある	
期	1	35		ことを知る。	
		36		・水産生物には、栽培に適した	
		37		環境や食性などに応じた管理	
	2	38		技術があることを知る。	
		39			
			Cエネルギー変換の技術(6)		・動力伝達のしくみ、運動を変化させるしくみについ
		41	2電気エネルギーの利用テー		
	2	40	ブルタップの作成	する。	・機械の保守点検と整備の方法について、まとめる
	3		3動力の利用	・人間はどのようにエネルギー	
		43		を利用してきたかを考え、エネ	・電気機器の安全な利用と、保守点検についてまと
		44		ルギーの利用には様々な技術が必要なことを知る	めることができる。 ・テスタを操作することができる。
		45		が必みなことで知る	・テスタを操作することかできる。 ・テーブルタップ製作を通して、電源プラグの修理、
		10			」・,一フルツツノ衆TFで通して、電源ノフクの修理、

令和4年度 年間指導計画

教 科 名	技術・家庭科(技術分野)	
学年・年間授業時数	3学年・17.5時間	
使用教科書(出版社)	「技術・家庭 技術分野」 (開隆堂)	
使用副教材(出版社)	なし	
教 科 担 当 者 名	根岸 将人	

1 教科の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)生活や社会で利用されている材料,加工,生物育成,エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに,それらに係る技能を身に付け,技術と生活や社会,環境との関わりについて理解を深める。
- (2)生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3)よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 観点別学習状況の評価規準・評価方法

観点	評価規準	評価方法
知識技能	生活と技術について理解しているとともに、それら に関わる技能を身につけている。	・定期考査・実技テスト・学習活動の観察・作品
思考 判断 表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定 し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現す るなどして課題を解決する力を身に付けている。	・作品 ・定期考査 ・実技テスト ・学習活動の観察 ・実習課題への取組 など
主体的に 学習に取り組む 態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、創造し、実践しようとしている。	・学習活動への取組 ・学習課題への取組 ・実習課題への取組 ・自己評価 など

3 年間学習計画 《技術科:3年》

期月週単元・教材名・配当時数 学習内容 学習のポイン 4 1 ガイグンス 2 Cエネルギー変換の技術 (7.5) 3 lわたしたちの生活とエネルギー変源 1 lt がたしたちの生活とエネルギーの変換と利用 - エネルギーの変換と利用 - エネルギーの変換と利用 - エネルギーの変換と利用 - 熱・光・動力への変換と利用 - 熱・光・動力への変換と利用 - 熱・光・動力への変換と利用 - 熱・光・動力への変換と利用 - たけたが利用していて電流とのよう形に変換し、利用していて電流のよう形に変換し、利用していて電流のよう形に変換し、利用していて電流のよう形に変換し、利用していて電流のよう形に変換し、利用している電流知り、どのように使い分ければよいの表が表に変換し、利用している電流知り、どのように使い分ければよいでは、大力に使い分ければよいでは、大力に大きが利用している電流知り、どのように使い分ければよいでは、大力に使い分ければよいでは、大力に使い分ければよいでは、大力に大きが利用したの表が開で、エネルギー変換を利用した製作のまオルギー変換を利用したようでは、大力に対し、大力に表しくみを説明で、エネルギー変換を利用した製作の、目的にあった製作品を製作では、大力によって制御されているようの問題解決を対して、大力によって制御されていることを知る。 ・ はたらきをワークシートにまとめる、・ 情報を処理する手順を知り、目的や条件に合うプログラムを作成する。・ 「報酬を処理する手順を知り、目的や条件に合うプログラムができるディジタル作成する。 ・ 身近な生活の中にある制御にはたらきをワークシートにまとめる、・ 情報を処理する手順を知り、目的や条件に合うプログラムができるディジタル作成する。 12 31 32 32	
1	<u> </u>
1	
1	
1	
1	
・エネルギーの変換と効率 ・自然界のエネルギー資源についる電流エネルギー ・熱・光・動力への変換と利用 ・記・光・動力への変換と利用 ・記・光・動力への変換と利用 ・記・光・動力への変換と利用 ・記・光・動力への変換と利用 ・記・光・動力への変換と利用 ・記・光・動力への変換と利用 ・記・光・動力への変換と利用 ・記・光・動力への変換と利用 ・記・光・動力への変換と利用 ・記・大・一変換効率について選を有効に活用する方法を考える。 ・わたしたちが利用している電源知り、どのように使い分ければお、管理なースルギー変換を利用した以作のように使い分ければよいで変換し、利用では、「ではないに対している電源知り、どのように使い分ければよいで、「でき変換し、利用している電源知り、どのように使い分ければよいで、でまを利用した製作が、日間に関い、とのように使い分ければよいで、できるでは、「一定ないが、「一定ないが、「一定ないが、「一定ないでは、「一定ないが、」」 ・身近な生活の中にある制御に関したらきでフークシートにまとめ、「コンピュータを用いた計測・制では、「おもときでフークシートにまとの、」 ・コンピュータを用いた計測・制御の基本的なに入みを知る。 ・ はたらきをフークシートにまとめ、 ・	ざまな技術が必
・電気エネルギー ・熱・光・動力への変換と利用 ・記が主な機器や機械をとおして ・表・光・動力への変換と利用 ・記がまする。 ・さまざまな機器や機械をとおして ・本ルギー変換効率について理を有効に活用する方法を考える。 ・わたしたちが利用している電源 知り、どのように使い分ければよい電気エネルギー変換して利用を理解し、機器のしくみを説明では ・工ネルギー変換して利用を理解し、機器のしくみを説明では ・工ネルギー変換に利用した製作 ・型の上によりであるに使い分ければよい電気エネルギーを変換して利用を理解し、機器のしくみを説明では ・本の上に表を利用した製作 ・表はのよりを説明では ・表はのよりを説明では ・表はのよりを説明では ・表はのよりを説明では ・表はのよりを記する。 ・ まなりにある機器はコンドラム・コンピュータによって制御されていることを知る。 ・コンピュータを用いた計測・制 ・まの回りの計測・制御システム・コンピュータを用いた計測・制 ・まの回りの計測・制御システム・コンピュータを用いた計測・制御システム・コンピュータを用いた計測・制御・ステム・コンピュータを用いた計測・制御・ステム・コンピュータを用いた計測・制御・ステム・コンピュータを用いた計画・利 ・まなりについてワークシートにまとめ、・ ・ 「対すらんだできる。・ ・ ・ ・ 「対すらんだできることができる。 ・ ・ ・ 「対すらんだできる。 ・ ・ 「対すらんだできる。 ・ ・ ・ 「対すらんだできる。 ・ ・ ・ 「対すらんだできる。 ・ ・ ・ ・ 「対すらんだできる。 ・ ・ ・ ・ ・ フ・・ ・ ブリートにまとめることができる。 ・ ・ ・ ・ ブリートにまとめることができる。 ・ ・ ・ ・ フ・・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	·
1	「(知り、それらを
1 電気エネルギーの利用	Γ エネルギーを
1	
10	
11	
12	
12 13 14 15 16 16 17 17 14 15 16 16 17 17 17 18 17 18 18 19 19 19 10 20 21 22 10 23 24 25 26 26 27 28 29 30 2-2計測・制御による問題解決	
13	
7	
15 16 17 9 18 19 20 21 22 10 23 24 25 26 26 21 22 25 26 26 27 28 29 30 2-2計測・制御による問題解決 2-2計測・制御による問題解決 12 31 31 31 31 32 31 32 33 34 35 36 37 37 37 37 37 37 37	
16	`` 0 °
8 17 9 18 19 20 21 22 10 23 24 25 26 27 28 2-1双方向のあるコンテンツに よる問題解決 2-2計測・制御による問題解決 2-2計測・制御による問題解決 2-2計測・制御による問題解決 12 31 31 31 31 32 31 32 31 32 33 34 35 36 37 37 37 37 37 37 37	
9 18 19 20 21 22 10 23 24 25 26 21 27 28 29 2-1双方向のあるコンテンツによる問題解決 29 30 2-2計測・制御による問題解決 12 31 12 31 12 31 12 31 12 31 12 31 - 身近な生活の中にある制御に間はたらきをワークシートにまとめる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
19 20 21 22 10 23 24 25 26 27 28 29 30 2-2計測・制御による問題解決 2-2計測・制御による問題解決 12 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 32	
19 20 21 22 10 23 24 25 26 27 28 29 30 2-2計測・制御による問題解決 2-2計測・制御による問題解決 12 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 32	
20 21 22 10 23 24 25 26 11 27 28 29 30 2-2計測・制御による問題解決 29 30 2-2計測・制御による問題解決 12 31 31 32 33 33 34 35 36 37 37 37 38 39 30 30 30 30 30 30 30	
21 22 10 23 24 25 26 26 27 28 29 30 12 31 2-2計測・制御による問題解決 2-2計測・制御による問題を持定 2-2計測・制御を持定 2-2計測・制御による問題を持定 2-2計測・加加・加加・加加・加加・加加・加加・加加・加加・加加・加加・加加・加加・加加	
22 10 23 24 25 26 27 27 28 2-1双方向のあるコンテンツに よる問題解決 2-2計測・制御による問題解決 2-2計測・制御による問題解決 30 2-2計測・制御による問題解決 31 31 32 31 32 31 32 33 34 35 36 37 37 37 37 37 37 37	
10 23 24 25 26 26 27 28 29 30 2-2計測・制御による問題解決 29 31 31 32 32	
24 25 26 26 27 D情報の技術(10) 2-1双方向のあるコンテンツに よる問題解決 29 30 2-2計測・制御による問題解決 12 31 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 31 32 32	
25 26 27 D情報の技術(10) - 身の回りにある機器はコン - 身近な生活の中にある制御に関した。 27 28 2-1双方向のあるコンテンツに よる問題解決 - 29 30 2-2計測・制御による問題解決 - 31 31 31 32 32	
25 26 27 D情報の技術(10) - 身の回りにある機器はコン - 身近な生活の中にある制御に関した。 27 28 2-1双方向のあるコンテンツに よる問題解決 - 29 30 2-2計測・制御による問題解決 - 31 31 31 32 32	
26	
11 27 D情報の技術(10) ・身の回りにある機器はコンピュータによって制御されていまる問題解決 ・身の回りの計測・制御システム・カンピュータを用いた計測・制分についてワークシートにまとめ、・コンピュータを用いた計測・制分についてワークシートにまとめ、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
11 28 2-1双方向のあるコンテンツに	日心ナサナ フの
28	
29	
30 2-2計測・制御による問題解決 御の基本的なしくみを知る。 ・具体的な仕事の流れ図をかくこ ・情報を処理する手順を知り、 ・プログラムができるディジタル作目的や条件に合うプログラムを クシートにまとめることができる。	
12 31 ・情報を処理する手順を知り、 ・プログラムができるディジタル作目的や条件に合うプログラムを クシートにまとめることができる。	
- - 日的や条件に合うプログラムを グシートにまとめることができる。	品を制作し、ワー
- - - <u> 32 </u> 作成する。 ・プログラムにしたがって機器を制	
	御することがで
33 ・プログラム可能なディジタル きる。	カル レフモ上畑
後 34 製品の制作。 ・コンピュータを利用してコンピュータを利用を	
期 1 35 する。	
37 化や環境とのかかわりを考え	
 	
2 38	
39	
40	
41	
3 42	
43	
45	